

# 文教福祉常任委員会記録

令和7年2月13日（木）午後1時02分～午後2時27分（9階904会議室）

## ○出席委員（9名）

委員長	川又 康彦
副委員長	高木 直人
委 員	佐藤 勢
委 員	遠藤 幸一
委 員	佐々木 優
委 員	石原洋三郎
委 員	大平 洋人
委 員	宍戸 一照
委 員	半沢 正典

## ○欠席委員（なし）

## ○市長等部局出席者（なし）

## ○案 件

所管事務調査「児童生徒の体力の向上に関する調査」

- 1 行政視察の意見開陳について
- 2 その他

---

午後1時02分 開 議

（川又康彦委員長）ただいまから文教福祉常任委員会を開会いたします。

先日の所管事務調査については、皆さんいろいろとハードなスケジュールにもかかわらずご協力いただきまして、ありがとうございます。

本日は、意見開陳についてを議題といたします。

1月28日から1月30日の3日間にわたりまして、大阪府堺市、寝屋川市、守口市、福井県福井市へ行ってまいりました。堺市では、小中学校における体力向上の取組について、寝屋川市では中学校区ごとのつながりのある体力向上の取組と学校体育館への空調導入事業の概要、展望、効果、守口市で

は小中学校体育館への空調導入とその効果について、福井市では小中学校における体力向上の取組について、それぞれを聴取してまいりました。

そこで、行政視察で聴取しました各市の先進的な取組について、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと存じます。意見開陳につきましては、それぞれ市ごとに行いたいと思っております。

まず、視察1日目の堺市の取組に対するご意見をお願いいたします。4つありますので、大平委員のほうからよろしくお願ひいたします。

**(大平洋人委員)** 私は、特に記憶に残ったものについては、堺市のスポーツチャレンジランキングについてでありますけれども、この部分、体力向上、要するに各小学校でクラス対抗の縄跳び記録大会を実施して、そこにはウェブも活用することによって児童同士の協力体制を確立させるとか、それから課長が言っていた、将来に記憶に残る、思い出となる取組が有効とお聞きしまして、確かに自分たちにも振り返ってみると何か記憶に残るようなイベントがあると、やっぱり将来、ああ、そうだったなということは、必要なのだなと思いました。

それから、スポーツ体力向上については、課題であると強く感じまして、お話の中ありましたけれども、体育が苦手なお子さんのための授業づくりの理解の向上を教員間でもやっていらっしゃるということで、小中交流で運動習慣を確立させたり、それから授業が楽しいというふうにさせるような取組が、結果的に健康スポーツへの関心が高まるようになるとおっしゃっていたのが印象に残りました。

それから、大学連携による体力向上の研究事例というところでいけば、やはり昨今の働き方改革の関係だと思うのですけれども、休憩時間、放課後等における運動の促進をサポートすることによって、子供への声かけをして、補助、学びをサポートする体制を整えて、それが役立っていることが最終的には体力向上にも非常にプラスにつながっていくのだなという、良い事例を伺ったと感じました。

**(半沢正典委員)** 今大平委員のほうからも詳細に報告いただきましたが、重複も含めましてお話をさせていただきます。

まずは、堺市に限ったことではありませんけれども、まず堺市についても運動が好きで、また運動が嫌いにならないようなことを第1目標として、特にわくわく感のある取組をというのが印象に残りました。具体的には、我々紙面で頂いているように、スポーツチャレンジランキングというような形で、今年度で終了予定とお伺いしましたが、うまくデジタルを活用して運動に対する興味の向上に取り組んでいるなど。縄跳びなどは学年別とかクラス別で回数を競うなど、工夫された今風のやり方をしているなというような印象で参考になりました。

また、指導力向上研修ということで、政令指定都市なので、少し規模感が本市とは違うということは前提にはありますけれども、大変優秀な指導員の下、その指導員が核となっていろんな裾野を広げる、指導者の裾野を広げる活動が着実に実施され、そして実績を積み重ねているということがまずは大切だと、体力向上につながる取組としては大切だと再認識したところであります。

あと、大学との連携については、堺市にも関西大学等の学部のほうが所在しているということもあって、上手に連携し、予算をあまり使わずして、市の予算はゼロだなんていうお話もありましたけれども、市としては学校側に教材の研修への協力とかというような形を取りながら、うまく大学の先生、そして学生を活用したWIN・WINの関係で大学との連携による体力向上も成果を上げているというところで、本市においても福島大学、そして福島学院大学、あと福島県立医科大学等ありますので、大学の連携も今まで以上に取り組める地域性がありますので、改めて活用すべきだなといった感想を持ったところであります。

**(佐藤 勢委員)** 私も重複するところはあるのですけれども、やっぱり一番印象に残っているのは、一番ポイントかなと思ったのは大学との連携、他団体とのつながり、この辺はやっぱり大事になるのかなというふうに思ったところです。うまく大学と連携し合いながら体力向上に取り組んでいるところを非常に学ばせていただきました。参考人招致でも福島大学の先生と、あと福島県立医科大学の先生のお話を聞かせていただきて、福島でもこれが活用できるのではないかというところは感じたところです。あと、人員の問題だったり、予算の問題だったり、様々なところはあるとは思うのですけれども、この辺はやっぱり丁寧に協議しながら進めていくべきところなのではないかなと思ったところです。

**(佐々木優委員)** 大学との連携がとっても上手に行われているなというふうに感じました。先ほども出ましたけれども、やっぱり優秀な指導者が在籍するという、ここはとても強みがあるのではないかというふうに思いました。そういう力を使われて学校の先生方の負担も減らしながら、学生さんなんかの力も借りれるのだったらとてもいいのではないかというふうに思いました。福島市内にも今半沢委員がおっしゃったように福島市内に大学もあるし、学生の皆さんにとってもそれが学びにつながるのではないかというふうな感想を持ちました。

教職員の皆さんへの研修にも力を入れているのだなというふうにも思いました。皆さんおっしゃっていましたけれども、大阪府内の自治体は小中学校の連携について小学校から中学校に上がるというその流れをきちんとつかまれて活動されているのだなというふうに思いました。その研修とはまた別なところかもしれないけれども、子供の意見を聞くシンポジウムというところで、例えば部活動への意見なんかも聞かれたというお話もされていたので、子供の声を聞くことも改めて大事だと思いました。

**(遠藤幸一委員)** 先ほど来皆さんからほぼほぼ出ている中身なので、重複する部分がほとんどかというふうに思いますけれども、スポーツチャレンジランキングでは、小学校クラス対抗の全員参加の取組ということで、運動時間の増加につながるいい取組だったなど感じたところでございます。あとは、先ほど半沢委員からもありましたけれども、スポーツチャレンジランキングは今年度で終わりということでありますけれども、新たな取組の検討なんかでわくわく感という視点については非常に大切だと、私もわくわく感という言葉に大分ちょっと印象が残ったところでございました。

あと、体育・保健体育指導力向上研修では、先ほど来ありますけれども、体育が苦手な児童生徒へのサポートという点では、そういったところの共有を教員の皆さんでされているところで、大きな成果につながっているというふうに思いました。本市としてもそういった部分は積極的に取り入れるべきなのではないかなと感じたところでございます。

あと、体力向上研究事業では、先ほど来こちらも出ていますけれども、市域での連携ということもありますし、また大学との連携で、市全体で体力向上に取り組まれているところでありましたので、本市としてもそういったところも学んで、今後の体力向上に生かしていくべきだなと感じたところでございます。

**(石原洋三郎委員)** 私も重複してしまうのですけれども、大学との連携が印象的でありました。毎回毎回だったらあれかもしれないのですけれども、時折、変わった環境の中で、例えば大きいお兄さんとかお姉さんから和気あいあいと指導を受けられて、サポートしてもらえるのは、小中学生にとりましても極めて意義深いのではないかなと思った次第であります。

先生方の取組といたしましては、工夫といいますか、子供たちが楽しいなと思えるように、わくわくするような形で指導していくことを心がけていることが印象的でありました。やはり生徒を見る、支える、知るという何かお話もあったかと思うのですけれども、そういうふうに生徒一人一人、特に運動が苦手な子とか、運動が得意ではない子、そういった子が楽しく感じるよう指導していくけるようなやり方というのが福島においても求められてくるのかなと思った次第です。

**(宍戸一照委員)** 今回の堺市においても寝屋川市においても、我々の一つの目的として子供たちの体力向上をどうするかというふうなことだったわけですけれども、その中で1つ、堺市教育委員会の先生がおっしゃったこととして、堺市の子供の場合の体力は平均的な数値であると。そして、全国平均と比較するよりも、現場として楽しさ、中身を感じさせる授業に心がけているというのが1つ。あまり全国的にどうだこうだというよりは、子供たちが体力向上、それで面白い授業ということのほうが大切ではないかということの中で、やっぱり大学との連携や地域連携のサポートーとか、そういう方々を招いてやっているのだなということは改めて感じたところです。それと同時にやはり、先ほど皆様からもありましたように、わくわく感とか、競い合ったり、チャレンジしたりする喜びという中で、スポーツチャレンジを各学校においてそういうふうなことでそれをアイパッドに入力し、ウェブ上に公開したり、ランキングでクラス分けして競って、目標を決めてみんなが自然と挑戦する喜びというものを味わえるような授業を行っているというふうなのがやはり感じたところで、やっぱり大都市は様々な子供たちがいるので、全体として底上げ、楽しんでもらうと、体育の授業を楽しんでもらうと、そういうふうな授業を心がけているということが自然に体力向上につながるのかなと感じてきたところです。

**(高木直人委員)** 私も皆様と重複するところが多いのですが、やはり堺市としてはスポーツチャレンジランキングとして大縄跳び記録大会を開催しております、学校対抗というか、そういったクラス

ごとにしっかりとその競技に取り組む部分で、もちろん体を動かすことへの興味を本当に子供たちに持っていただくとともに、あとはその競技を通じて、いわゆる協力して団結してその記録を伸ばしていく、そういうことも子供たちにとっては非常にプラス要素になるのではないかと感じました。

あとは、先ほど皆様からもお話をありましたとおり、やっぱり大学との連携というか、関西大学の学生さんがサポーターとして入っていただいて様々生徒たちの体力向上のサポートをされているところはやっぱり非常に参考にすべきかなということで、本市も福島大学とか福島県立医科大学などの大学がありますし、福島大学は陸上競技などに特に力を入れていらっしゃる大学でもありますので、そういう意味では、大学生の皆さんとかが子供たちのいわゆるスポーツのサポートに入っていただければ本当にすごく刺激にもなるし、いいのかなというふうに思いました、そういうところを、今回の堺市からの視察で得た内容なんかを本市でもぜひ取り入れていければと考えました。

**(川又康彦委員長)** ありがとうございます。

私からは2つ。福島市で取り入れることが可能なのは何かなというふうに考えた観点から、1つ目は、福島市でも既に縄跳び記録会はやっていて、ただこちらの堺市の場合だとネットを通じて市全体の比較ができる部分は非常に注目すべきだと感じました。というのも、今学校によって統廃合もいろいろ進んでいる部分がありますが、小規模校と大規模校の差が相当激しい部分があって、小さいところの学校の中だけで終わってしまうというのはやはりもったいないのかなと非常に感じておりましたので、そのところをほかの学校と比較しながらという部分が自分の学校、自分の記録というのどれぐらいなのかなというのを改めて見るというのは可能なのではないかなと感じました。

もう一つは、大学との連携で、これまで福島大学、福島県立医科大学の先生からもお話を伺ったとおり、取組はありますが、あくまでも先生が主体になって各学校にアプローチして行っているのが現状なのかなと感じておりましたので、一遍に全部の学校では当然できないとは思いますけれども、体系的に教育委員会のほうで音頭を取ることによって、1年に例えば5校ずつとか、そういうもので回していく、数年かけて全ての学校を回るような、そういうことも可能なのではないかなと感じました。以上です。

では、各委員からご意見のほうをいただきましたが、今挙げていただいたほかの委員の方の意見等を踏まえまして、改めて市の課題や提言につながるような項目がもしあるようでしたら、お述べいただければと思いますが、いかがでしょうか。大体出尽くしたという感じでよろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

**(川又康彦委員長)** それでは、2日目の午前の寝屋川市の取組に対するご意見をお伺いしたいと思います。順番に、今回は宍戸委員のほうからよろしいですか。

**(宍戸一照委員)** 寝屋川市さんに伺って1つ印象的だった言葉はやっぱり、あの先生がおっしゃったことは、体力向上という観点から見れば、体力テストの数値、結果をよくするには45分間その運動に特化すれば数値は上がるのだと、記録は伸びるのだということではなくて、やはり授業が楽しくなけ

ればならないという理念のところで、授業をいかに楽しくさせるか、運動することが楽しくなる授業が体力向上にも結びつくのだという考え方を1つ学ばせていただいた。当然のことなのですけれども、それを教育の現場で実践していると。その一つの流れとしてはやっぱり小学校2校と中学校1校の小中一貫の、福島でも小中連接事業をやっているけれども、小中一貫、2校と1校という中での教科ごとに月1回連接しながらやっている、このように熱心な、福島でも小中連接ではやっているけれども、そこまでは取り組んではいないのが実態でありますから、やはりそこが徹底していて、子供たちを9年間という学びの中で体力向上とか運動の楽しさというものを教える授業をしているのだなと。それがいろんなアドバイザーの契約とか、先ほど来の大学との連携とかに結びついているのかなということで、それを今回寝屋川市さんでは非常に感じさせられたというか、そこがあるのだなということを感じさせられたところであります。

あと、エアコンのほうはまだいいのでしょうか。

**(川又康彦委員長)** いや、寝屋川市全体の話です。

**(宍戸一照委員)** 寝屋川市全体ですか。エアコンについて言いますならば、平成30年の台風21号の際、体育館を避難所として活用した経過があったと。その際ちょうど猛暑を受けて、とても暑かったため、熱中症対策という避難所の環境改善の観点から冷房の必要性を感じて検討が始まったと。それに緊急防災・減災事業債を活用して取組が始まったことで、いろいろ調査した結果はやはりガスであると、電気だとしかすると止まるかも分からぬということで、LPGガスを使ったガス空調、これを取り入れたことで、その防災との絡みの中で始めたことで、それが予算的には、回答にもありましたように、まず立ち上げとしてそんな大きな予算ではなかったと。実施設計で、22校、1億1,500万円。それから、22校全部での工事費が14億8,100万円ということですから、それほど大きな出費ではなくできると。それで、現状の体育施設に対して行うので、冷房の場合は冷気が下に沈む、暖房の場合、上に上がってしまうという特性があるけれども、冷房に関しては非常に効果があったと報告をいただいているということなので、福島市としてもその辺は参考にしたい。それで、コスト的にかかっているのかといえば、光熱費が2割ぐらいアップしている程度ということありますから、問題はないのかなというふうに勉強してきたところでございます。

**(石原洋三郎委員)** 1番目の資料なのですけれども、12ページに書かれていることが印象に残ったところではあるのですが、良い授業とはということで、教師の説明が短く、短くというか、的を射ている説明ということだとは思うのですけれども、教師の説明が短く、運動量が多い授業とか、あと仲間と協力してその達成感を、やったなというふうに味わうことができる授業とか、今までできなかったことが今度できるようになったとか、そういうことが基本かなと。またやりたいなと思えるような授業を展開していく。結局先生のスキルアップというのが重要なことだとは思うのですけれども、やはり教わって楽しいなと思える授業は、正直確かに自分も経験上、あんまり面白くないなと思うような授業もあったかなと思いますので、やっぱり楽しいなと思えるような取組が重要なかなと思った次第で

す。

部活動に関しては、種目別に拠点校を設けてということなので、これが今後どういうふうに、いい方向に行くのか、よくない方向に行くのか、ちょっと分からぬのですけれども、基本はやっぱり生徒数がしっかり確保されていて、その学校の中でちゃんとチームが編成できれば、それはそれでいいとは思うのですけれども、ただやっぱりサッカーとか人数が11名必要だというときに集まらないといったときには一つの課題になってくるかと思うのですけれども、そこは市の中学校の統合とかそういう話も出てきてしまうかと思うので、基本はなるべく自分の学校で、福島市の場合、特に学校が離れていて、近くもないですので、やはり自分のところでできるようにしていくという工夫が必要かなと。あと、コーチとかの部分において、やっぱりそのような指導熱心な方々が地域の中にはいらっしゃると思うので、そういう方々の協力ももらえるような方法で、先生方のちょっと負担軽減にもつながるような形で、うまく協力関係が保たれるような地域人材を確保できるようにしていけば福島市の場合はいいのかななんて思った次第です。

（遠藤幸一委員）体力向上の取組では、小中一貫での体力、運動能力の向上政策ということで取り組まれておりますし、そういうところは本当に見習うべき部分、できる部分、できない部分はあるというふうに思いますけれども、できるところから本市も取り入れていくべきなのではないかなと感じたところでありますし、あと児童生徒体力つくり推進計画書ということで、福井市さんも同じく作られていますけれども、私の勉強不足でしたら申し訳ないのですが、福島市のほうではちょっと物が見つからなくて、作成されているのか、私も把握できなかったのですけれども、そういうところでしっかりとそういう計画にのっとって連携しながら取り組まれているところでありますし、そういう中で寝屋川市さんでは苦手意識をなくすためにニュースポーツを取り入れた体育祭というのも開催されているところでありますので、そういうところも非常に運動が苦手な子供たちも楽しめるようなことも考えながらやっていると感じたところでございます。

あとは、大阪府としての取組ということでありますけれども、オリパラ選手の派遣事業とかアスリート派遣事業等、府として取り組まれて、そういうスポーツ選手の話を聞く機会を設けているというところで、本市も様々なオリパラ選手がいらっしゃいますので、そういうところは県との連携も必要になってくると思いますけれども、本市もそういったところが取り組めていければ子供たちにもっとスポーツ、運動に対して興味を持ってもらえるのではないかなど感じたところであります。

あとは、寝屋川市さんでも教職員研修で、全ての市で取り組まれている部分かというふうに思いますけれども、そういうところで教職員の方の研修では大学と連携していたり、また子供たちに運動が楽しいものだと教える授業内容が重要という視点で、いわゆる先生たちの実地研修ということで取り組まれているところで、非常に参考になる内容だったなど、本市でも取り入れられる部分については取り入れていけたらいいのではないかというふうに感じたところでございます。

あと、体育館への空調設備導入は、寝屋川市さん、守口市さん、ちょっと私のほうで共通してまと

めた部分だったので、寝屋川市さんでもガス自立式ということで、先ほど宍戸委員からもありましたけれども、電気だとキュービクルの容量の問題とか、あとは停電時の部分で心配だということでガス自立式のものを導入されたと、そういったところでは、非常時の体育館への避難とかそういったところも含めると、非常にガス自立式というところでは有効的なのではないかなというふうに感じたところでございます。

あと、両方に共通して言えることなのだと私は思いますけれども、地域の違いで、やはりあちらは大阪のほうと、こっちは東北ということありますので、地域の違いで断熱性の工事等が必要なことも東北の部分では考えられるのではないかなと思いますけれども、やはり、どちらの市でもあったかと思いますけれども、子供たちの学ぶ環境とか、生き生きと学校生活を送る観点というところから見れば、導入に向けて前向きに進めていくべきなのではないかなというふうに感じたところでございます。

**(佐々木優委員)** 中学校区ごとの連携もされているなという印象でした。中学校の先生が小学校に出前授業を実施しているということで、そんな取組を、先生方の大変さはどういうことなのかなというちょっと疑問もあったのですけれども、それから運動が苦手な子も楽しめる授業内容にしていくところから、先生方の研修も具体的にどうすれば子供たちにとっていい授業になるのかという分かりやすい内容になっているのではないかなと感じました。

驚いたのは、部活動の拠点校というのが全部子供たちは自力で、自転車で行ける範囲にあるということで、これは寝屋川市ならではなのではないかなと感じました。

子供が主体的にいろいろ学んで運動するにあたっては、やっぱり寝屋川市の特徴的なところは、例えば考える力を身につけるためにディベートマッチを小中学校でやっているということで、こういう特徴的なこともあるのではないかなと思いました。

学校体育館への空調導入ですけれども、断熱対策をせずに設置されたところで、夏場はそれでしのげるということで、やっぱり夏って幾ら脱いでも暑さは限界があるのですけれども、夏場の対策をしっかりされているが、冬は着込んだりということもできるかなって思ったりして、断熱対策がなければ駄目なのではないかなと私も思っていたのですけれども、そうでもなく、しかもやれているということをお聞きできて、なるほどというふうに思いました。通常は都市ガスを使って、プロパンガスも72時間備蓄をしていることで、やっぱりこういう対策も今後必要になってくるのだろうなというふうに感じました。設置をするのに1校6か月から7か月で設置して、全ての学校の体育館にということで、このスピード感たるやすごいなというふうに改めて思いました。

**(佐藤 勢委員)** 私の印象に残っているのはやっぱり2点です。体力向上に向けたところの取組、体力テストの結果を受けてどのような課題が見られたのか、そしてそれに対する対策をしっかりと取り組まれている。教職員の方々が研修会だとか研究会を通じてその課題に取り組まれているのはすばらしいところだなと思ったところです。P D C Aサイクルが非常にいい形で回っているのだなというふうに感じたところが1点ありました。

そして、もう一点はやっぱり種目別の拠点校、部活動の拠点校です。やはりその得意な先生と、そしてやりたいなというふうに思っている生徒が集まって一緒に部活動を行うというのは非常に、想像しただけでもわくわくするし、効果的なものになるだろうなというふうには思ったところでした。ただ、本市の場合を考えたときに、やはり広い福島市においてそれができるのかというところが課題にはなるのだろうなというふうには思ったのですけれども、その課題も含めて検討することも必要なのかなというふうには思ったところです。

**(半沢正典委員)** 寝屋川市さんは特に、先ほど石原委員からもありましたように、運動嫌いの子に対して運動が楽しくなるサイクルをつくるためにどうしたらいいかを日々試行錯誤しているのが大変印象的で、寝屋川市の小中体育研究会が中心となって、全ての子供が楽しく運動するためには何がよいかということを希求している姿が大変参考になりました。のために、答弁のほうでは、ニューススポーツを取り入れたり、野球をする前、バスケをする前には、すぐ入るのではなくて、親しみやすいところから、そして興味、関心を持って少しずつ取り組んでいくと。そして、印象的なのは、チームをつくって、チームの中でできない子にもできる子が教えてやるところまでゴールにしてやっているのが結局、後ほど福井市のほうでもあるのですけれども、子供たちの自主性、そして主体性をつくっていくところがこの寝屋川市とやはり共通していて、そちらのほうが結局は運動嫌いから少しずつ自信を持ちながら仲間と一緒に楽しく運動して、結果的に肥満の解消とか、運動能力の向上とか、そのようにつながっているところをしっかりと実践で実証している姿が大変参考になりました。

**(大平洋人委員)** 出尽くした感はあるわけありますけれども、重なったところは申し訳なく思いますけれども、やっぱり学区ごとのつながりのある体力の向上ということで、体力テストから特に一例としてソフトボール投げに課題があるというところから入って、それは多分全国的にコロナの影響もあったのではないかと思いますけれども、不得意な子供たちの指導のためにニュースポーツを導入しているということ。その結果として、楽しくなるように教員が非常に努力した結果に様々なものの成績がよくなってきていたというお話を受けました。その中でも、その一例としてバドミントンの羽根を活用した指導法の実践というのが非常に心に残ったというか、ああ、なるほどなと思ったわけでありますけれども、そこには正しい体の動かし方、コツとか、楽しさ、すばらしさを伝える授業という、キーワードとしては分かる、できるということを体験させるということが最終的に子供の体力の向上につなげる取組にできるということが非常に、指導力の向上という意味でも非常に心に残りました。使えるのではないかというふうに感じました。

最後に、学校体育館の空調導入ですけれども、緊急防災・減災事業債の活用というので整備に着手したという、非常にスピーディーに手を挙げたというところがすばらしいなというふうに感じました。素早く手を挙げて、結果的に7割補助の中で予算的にも、ちょっと余裕のある自治体ということもあるのかもしれませんけれども、そういうこともやはり市教委、市もそうですけれども、重要なだなというふうに感じましたし、またさらに統合された学校用地の整備の民活についても用意周到に動かして

いるというところが非常にいろんな意味で回っているなという印象を受けた寝屋川市でした。

**(高木直人委員)** 私も寝屋川市は、まず体力向上につきましては、児童生徒体力つくり推進計画書、こちらをやはりしっかりと作成されて、成果と課題をまず明確にするとともに、課題改善に向けた取組を実施することによって児童生徒の体力向上につなげている点は非常に参考にすべき点だなというふうに考えました。

あとは、体育館の空調につきましては、本当に先ほど佐々木委員もおっしゃられたように、断熱性能を、必ずしもそれほど重視することもなく事業を推進されていたというところに非常に注目しています。あとは本当に今大平委員が言われたように、関連で守口市についてになりますが、断熱性能が建て替えとか改築とかによって確保されている学校については学校施設環境改善交付金というものを活用し、またそれ以外の対象校、いわゆる断熱効果がいま一つという、不安があるところについては緊急防災・減災事業債を適用することで、そこをしっかりと使い分けていらっしゃるところが非常にやっぱりポイントなのかなというふうに思いました。本市においてもやはりこれから学校施設に、体育館に空調設備を導入するにあたっては、その辺りも非常にやはりどういう方式を取っていくのかがすごくポイントになってくると思いますので、寝屋川市や守口市の事例を非常に参考にしていただければなというふうに思いました。

**(川又康彦委員長)** ありがとうございます。

私のほうからは、寝屋川市についてはやはり中学校区ごとに体力の向上につながる施策を行っているということで、体力向上は短期間でどうこうという部分ではないので、小中学校9年間の間でどういうふうに子供たちの体をつくっていくのかという部分をきちんと見ているのだなと改めて感じ、正直言って体力の部分では、堺市もそうですし、大阪全体的に全国平均と比べると決して高い数字ではないと改めて感じたので、そのところで、では数値を上げるためにどうこうというよりは、楽しく学んで子供たちの体をつくっていく、中学校においても課題は何なのかという部分を見極めながら少しずつ向上させていく取組が効果を上げているのだなと改めて感じました。

室内空調については、宍戸委員からもありましたけれども、総工費のほうが22校で約14億円ということで、1校当たり多分6,000万円か7,000万円ぐらいかかっているのかなという。ガスを使った方式なので、これが高いのか安いのかはいろいろ議論の分かれるところだと思いますけれども、守口市と比較すると多少やはり値段的には高くなるのだなと改めて感じました。以上です。

それでは、寝屋川市について、ほかの委員の方の意見を踏まえまして何かございますか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

**(川又康彦委員長)** それでは、同じく視察2日目午後の守口市の取組に対するご意見をお願いいたします。大平委員からよろしくお願ひいたします。その際、今回の守口市の体育館の中で現場を見て、それぞれの説明してくれた先生方とか、個別にいろいろ質問などもされていた方も拝見しております

たので、どんな話を聞いたのかも、もしよろしければこの場で共有できるとよりよいかなと思いますので、ちょっと記憶を多少なりとも遡りながら、もちろん今回の視察の報告ということで、あまり関連ない話は全然構いませんので、これは話しておいたほうがいいかなというような特記するような項目等ありましたらば、ぜひ共有していただければと思いますので、その件も含めてお願ひいたします。

（大平洋人委員）小中一貫校ということで、体育館の空調についてご説明を受けた中では、やっぱり夏季の運動、昨今の暑さ対策ということで、私は全然知らなかったのですけれども、正副委員長のほうから出てきたスポットバズーカというものを実際に運用しているところを見て非常に有効であるなというふうに感じました。さらに、当学校は災害時に避難所にも指定される学校であるということで、冷暖房、エアコンが明らかに有効だなというのも理解できました。今後、本市の学校もやっていかなければいけないなという問題点も当てはまる点が非常に多くあったのではないかというふうに感じました。また、消費電力についても、ソーラー発電を十分に活用されているようで、電気料金をセーブできているというお話をたしか伺ったと思うのですけれども、そういったところもすばらしいなというふうに感じました。

（半沢正典委員）守口市については、ひとまず我々としては冷房の状況ということだったのですが、季節柄暖房をかけていただいて、暖房だとどうしても暖かいのが上に上ってしまって、体感的には効果のほうはどうなのかななんていうふうに思ったのですけれども、冷房については、校長先生、また説明いただいた教職員からもありましたように大変効果的だし、あと行事のときは、騒音等心配については消したりなんかして運用も上手にやっていらっしゃるということと、あと設置までの経緯として分厚い資料をデータでいただきましたけれども、先ほどの寝屋川もそうでしょうけれども、大阪府内は各市でもう既に取り組んでいるところがたくさんあって、高いところですともう8,000万円、9,000万円のところから、守口市で入れた3,000万円程度のところまであったりということで、非常に多種多様な機種があるというのはまず認識できたなということです。大阪のほうと東北、この福島のほうは多少気候も違うのですが、これからどんどん温暖化が心配される中で、導入の際は様々な角度から、防災とか、避難所の観点とか、あとはコスト面とか、そして熱源の関係とか、様々な視点がこれ必要なのかなということを改めて学んできたというところであります。将来的にはやはり、多角的な観点からも、体育館における特に冷房ですか、そちらの必要性は年々高まっていくのではないかというふうに認識しております。

（佐藤 勢委員）やはり実際にエアコンが設置された体育館を見せていただいて、非常に参考になったなというのは本当につくづく思ったところです。あと、体育館にエアコンを設置するメリットも本当に感じられましたし、避難所としてやはり十分体育館としての需要もあるだろうなと感じたところでした。やはり課題としては、挙げられたようにランニングコストだったりとか設置費用、この辺の課題はあるのだろうなというふうには思うのですけれども、将来的にはやはり必要なものになるだろうと感じたところです。

エアコンの話とちょっと離れるのですけれども、ちょっと1つ思ったのが、学校を見させていただいて感じたところが、地域のルームがあったというところが非常にちょっと私の中ではいいところだなというふうに思いまして、地域の方々が学校に行っていろんなところの取組をされたりとか、PTA活動をされるような、そのような身近にある学校と地域とのつながりみたいなのは非常に勉強になったところです。すみません、ちょっと関係のないところではあったのですけれども、言わせてもらいました。

（佐々木優委員）可動式のエアコンを実際に見ることができて、体験もできて本当に参考になりましたし、コスト感なんかも本当に、いろんな種類がある中でこのレベルはこういう力を発揮するのだなというのを具体的に見れてよかったです。電気料金についても、エネルギーを使うのはやっぱり冬場なので、夏場はソーラーでやりくりができるということだと思うのですけれども、その部分ではやっぱりその学校でソーラー発電して回すということはとても今後重要になってくるのではないかなど感じました。今後、寝屋川の固定と、このスポットバズーカという、そういう比較なんかもしながら、福島市でもとにかくメリット、デメリットをよく出し合って設置をしていくべきだなというふうに改めて感じました。

（遠藤幸一委員）先ほどちょっと寝屋川市さんのところでもお話をさせていただきましたので、短くですけれども、やはり今ほど来るとおりだというふうに思います。コストとかいろいろ、今後そのランニングコスト、導入費用等もいろいろ検討しなければいけない部分は大きくあるなというところで、期間はかかるなというふうに感じたところもありますけれども、やはり子供たちの学ぶ環境とか、生き生きと学校生活を送る観点からも導入してよかったですという先生のご意見を伺って、私もそういった点で本当に必要だなというふうに、特に冷房の部分で大きく効果を感じるというところでありましたので、冬場は、先ほど佐々木委員からもありましたが、厚着をするとかそういったところでしのぐ部分も必要になってくるのかなというところもありますけれども、冷房だけでもかなりの効果があるということで、やはり近年の熱中症等、体育は夏場できないというところでの、体育館での活動はできないというところも考えると、早めに導入できるように前向きに進めていくべきではないかなというふうに感じたところでございます。

（石原洋三郎委員）印象に残ったのは、2階の屋上のほうに、屋上というか、1階ではなくて2階のところに置いていたかと思うのですけれども、先ほどもお話をあったとおり、2階に置いていると冬場はあまり効果がなくて、どうなのかななんてちょっと思った次第であります。1階に置くとなると今度安全上とかそういうものもありますので、これまたちょっと難しいところもあるのかなって思うのですけれども、この福島市の実態が、例えばそういう体育館の状況がどうなのかなということをまず1点あるのかなと思います。そういう中で、夏なのですけれども、特に夏休みが大体7月20日ぐらいから8月の下旬ぐらいまで、一番暑いときに夏休みでもあるので、ここにおいて、例えば夏休みの中に部活動というのも確かにあるのかなとは思うのですけれども、福島市の場合だと実際中学生と

かがどのくらいの温度でやっているのかなというのもちょっと思った次第です。ただ、今年の夏に地域で吉井田小学校のバレーボール大会をやったときに、体育館の中が確かに物すごく暑かったことは暑かったです、そういう実態を踏まえながら設置していくことは大切なことは思います。特に予算が非常に、イニシャルコストもランニングコストもかかると思いますので、そう簡単には全校一挙に配置ということはまず難しいでしょうし、今、市の財政状態も苦しい中で、一番暑いのが夏休みということを考えたときに、どこまでできるのかなというふうに思ったので、そのメリット、デメリットをしっかり把握しながら取り組んでいくべきかと思った次第です。

**(宍戸一照委員)** 当局の本会議、委員会での答弁を聞いても、まずは断熱、体育館が古いということで、断熱効果があるのというふうな、やっぱり体育館も改修しなくてはならないというふうなお話だったわけでありますけれども、寝屋川市にしても、守口市の実態を見ても、断熱材の設置、補強しなくてはならないというどうこうの議論は、話は出なかったのかなと。

もう一点、大阪市内の気候状況を考えると、やっぱりこの守口市の義務教育学校の大アリーナのレイアウトを見ると、周りがもう教室の壁になっていて、教室そのものももうびっちりで、ビルの間にあっており、通気性が悪いと。やっぱり先生もおっしゃったようにエアコンは当たり前なのだよと。もう風通しも悪く、窓を開けても風は入ってこない、日中の気温は40度以上になるということで、福島市が暑い暑いとは言われても、今は向こうのほうが暑い。こういう状況になってくるとエアコンが当たり前というふうな先生のお言葉、まさにそのとおりなのかなというふうに感じまして、やっぱりこのような中で守口市の義務教育学校のアリーナ、大アリーナも中アリーナもそうなのですけれども、ぴったりと校舎の中にくっついているということで風通しが悪いから、やはりエアコンが必要だなどということは感じたところであります。エアコンがなければとても夏場は運動できないのではないかと。そうした中で先生がおっしゃったのは、大体130平米当たり1台の割合でエアコンをつけたと。そうすると、中アリーナに5台あったわけですけれども、それで2階の踊り場というか、あそこに使っていたということなので、大体5台ぐらいの計算になっていたのかなということでありまして、夏場の冷房は空気が下がるからいいけれども、冬場は使っていない。ただ、夏場も冷房をつけたり、消したりすると光熱費的に無駄であると。やっぱり朝つけたらずっとつけ放しにしたほうがランニングコストは安いというのは、当たり前のことなのだけれども、学校はもうそういうふうな体制で動いていると。それはやはりランニングコストという部分で非常にかかるのかなと感じたところで、そうした中でお話があったように太陽光パネルを設置して電気料金を何ぼなりとも安くしていると、こういうふうな工夫もなされているということありますから、やっぱり我々としても、もしつける場合は、校舎の体育館の状況もあるし、あとはやっぱりそういうふうなコストの面で、例えば屋根にソーラーパネルでもつけて電力を削減するような方式が取れればいいけれども、残念ながら、今の福島市内の小中学校の体育館の状況を見ると、そこまで丈夫にはできていないので、なかなか校舎の体育館の天井にはソーラーパネルはつけられないのかなというふうな思いがすると、やはり電気でやる場合

は電気料金をどうするのと。夏場の場合、高騰する電気料金をどうするのかというふうな問題も解決しなくてはならないのかなというふうに感じたところでありますけれども、ただ守口市のスポットバズーカは安いよと。取付け費用については安いというふうなことをお話をいただいたので、その辺が一つ我々としても考えてみる価値があるのかなというふうに感じてきたところであります。

**(高木直人委員)** やっぱり守口市については実際に使用されているものというか、現場を直接見ることができたというのが大きな成果だったとは思います。あとは、様々なご説明を受ける中で、今宍戸委員がおっしゃられたように、まずスポットバズーカについては設置費用が安価であるということと、あとは施工期間が短くて済むというところがやっぱり非常に魅力的なかなというふうに思いました。やはりこういった子供たちの運動の環境の整備、また避難所としての体育館への空調設置、これをよりスピーディーに進めていく意味では、コストも大事ですけれども、いかに短期間のうちに多くの体育館に設置できるかどうかということも非常に考慮しなければならない点かなというふうに思いますので、今回のスポットバズーカ方式、これも本市でこれから体育館への空調設備を進めるにあたってぜひ検討の材料にしていただければなというふうに感じました。

**(川又康彦委員長)** ありがとうございます。

先ほど半沢委員からも様々な話がありましたが、幾つかの空調の方式というのを各自治体のほうから提示いただきまして比較検討することができたのは非常によかったですと感じました。それぞれのメリット、デメリットはやはりあるのだなと改めて感じましたので、費用の部分、避難所としての機能性としたときにどういったエネルギーを使うのが一番いいのかも含めて、本当に様々な角度から福島市で今回導入していく空調以外の部分でどういったところがやはり必要性に合致するものをつくるべきなのかという部分は様々な検討内容の一つの大きな素材になったのかなと改めて感じました。

では、守口市については以上のような形ですけれども、それ以外に何か今各委員の意見を踏まえてお話をございましたらば。いかがですか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

**(川又康彦委員長)** では、最後に視察3日目の福井市の取組に対するご意見をお願いいたします。

では、こちらは宍戸委員から。

**(宍戸一照委員)** 福井市の場合は、大きな特徴としては、市内を4つの区域に分けて、小中組合せをした中でブロック制の中で様々な取組を行っているのが大きな特徴なのかなというふうに思います。こうした中で、やはり福井市の場合は子供たちの学校に対する満足度が非常に高いと。学校が楽しいとか、郷土福井を大切にするとか、将来の夢や目指す目標を持っているというパーセントが非常に高くて、それをさらに高みにある目標値に引き上げるための様々な取組を行っているというの非常に印象的で、住みたい都市日本一の福井市でありますから、この辺の数値が高くなるというのは当然なのかなというふうな思いで見てきましたわけでありますけれども、こうした中で全国の体力テストも相当数が1位であると。総合点が1位であるということですから、しっかりと学校教育の中でも日々の生

活の中でも取組がなされているのかなと。その基本的なものがやはり業間の3分間トレーニングとか、ながらトレーニングとかということで、常日頃から子供の体を動かす、例えば授業以外においても、始業前とか業間の時間に全校体育とか、縄跳びとか、教員も一緒にするとか、そういうふうな日頃の取組をしっかりと行っていると。これが長い歴史として続いているというふうに感じたところであります。そうした中で、やはり基本的にはブロック制の中において子供たちがタブレットを使って自分たちで工夫しながらそれを活用しているのが大きな特徴なのかなというふうに感じました。

また、あと大きな特徴としてはやはりクラブ活動の地域移行、福島市の場合は支援員制度というのがあるわけですけれども、福井市の場合は地域ごとに地域移管の、様々な団体に部活動というものを順次移行していくと。それで令和8年には地域活動を主にしてもらうのが大きな流れの中での特徴なのかなと。やはりそれは自前の学校でやるより、大きな団体、大きな固まりの中で、少子化の中でそれができるのではないかということで、4地区のエリアの中でそれが行われているのが大きな特徴なのかなというふうに感じてきたところでございます。

**(石原洋三郎委員)** 私も宍戸委員と一緒に、印象に残ったのは資料の11ページのところにあった学校が楽しい、ふるさと福井を大切にしたい、将来の夢や目指す目標を持っているところで高い数値があったということです。福井市のやっている内容からすると、多分福島市も基本的にはこういうことやっていることだとは思うのですけれども、楽しいとか、大切にしたいとかそういう、目標を持っている、モチベーションが高いのかなと思ったので、このモチベーションというものを高めていくことが大事かなと思った次第です。前段の説明の中で啓発力という話もあったのですけれども、そういうふうに福井の中で啓発力というのも小学生、皆さんに何か普及させているのですといったことがちょっと印象に残った次第です。ICTの活用というのもやっぱり、今の時代、何かほかのヨーロッパとかだといろいろ規制をかけるような話もあったりしてきているのかななんて思うのですけれども、このICTをうまく活用しているところが効果的なのかなと。10ページの下にあるチームとしての学校、楽しい学校、安全・安心にすごせる学校というのがいいのかなと思った次第です。

部活動の地域移行のほうに関してなのですけれども、以前ですと、我々が子供の頃というのはスポーツ少年団みたいなのもあったし、あと育成会というのもあったので、小学校のときはそんなに部活動というのはなかったのですが、若干あることはあって、中学生になると部活動になって、たしか育成会というのは小学校のときやっていたのかなと思うので、少子化が進んでいく中においては地域の力と学校の力、これは片方が高くなったり、片方が低くなったりというのはあるかと思うのですけれども、やっぱり地域の協力をいただきながら子供たちの体力向上を盛り上げていくというのがいいのかなと思っております。個人的には、今までせっかく部活動があったので、部活動を中心に今後も地域から協力もらえればいいのかななんては思うのですけれども、ただ実情に合わせて変化に対応していくのも大切だと思っておりますので、その点を加味していただきながら、よりよい方向を当局のほうも模索してもらえればなと思うところであります。

**(遠藤幸一委員)** 福井市さんでは、学校の教育方針として大きく6項目、先ほど宍戸委員からありましたけれども、郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成という教育目標の中でも、その一項目に心づくり・体づくりということで健康教育だったり、運動習慣づけの推進ということを掲げられて取り組んでいるというところで、市全体、また県としても体力向上に取り組むということで元気パワーアップ作戦ということで、本当に県、市の中でもそういった子供の体力向上に向けた取組をしっかりと取り組まれているのだなというところで感じたところでございます。そういった中で福井市さんにおきましても体力つくり推進計画書ということで作成されているということで、非常に細かく取り組まれているということでございました。計画して、テスト結果の考察、報告書ということでPDCAをしっかりと回しながら取り組まれているということで、そういったところもかなり学びになったなというところでございました。

また、楽しさ、主体性、そして子供たちに目当て、狙いを提示して振り返らせるということで、子供たちに考えさせて取り組んでいるというところは非常に勉強になりました。

また、福井市さんにおきましても先生たちの講習会、公開授業だったり、研究会の実施ということで問題を共有されているという、市全体でそういったところで問題共有をしながら、運動が嫌いな子供たち、運動が苦手な子供たちにどうやったら運動を好きになってもらえるかというところを情報共有されているというところもありましたので、そういったところでは3市とも先生たちの講習会とか研修会とか、そういったところを取り組まれているということで、本市としても見習って取り組んでいくべきなのではないかなというふうに感じたところです。

あとは、小学校スポーツフェスタということでありまして、これまで陸上競技の連合体育大会を約70年間続けてきただのを、スポーツフェスタということで、開催2年目ということでありましたけれども、気軽に楽しめるスポーツ体験を通じて運動が苦手な子供たちにニュースポーツ等を通じて様々取り組んでもらって運動を好きになってもらう取組ということで、全児童の参加でしたり、学校交流、また興味、関心を持ってもらう取組として非常に興味深い内容だったなと感じたところでございます。

**(佐々木優委員)** 幸福度ランキングとか、子供の運動能力が高い、1位とかって、どうしてもその数字に私もどらわれてしまって、そういう質問してしまったのですが、数値が全てではないということをはっきりとおっしゃられていて、できる、できないではなくて分かる楽しさを子供たちの主体性を生かしながら育む授業を目指しているのだということが結果につながっているのだなと改めて感じました。主体性を育むって、福島市でももちろん取り組んでいるけれども、そこに何か違いがあるのかな、そこにヒントが何かあるのかなというふうにも感じたところでした。

体の運動機能だけではなくて、目の視力に対しても対策をされているということちらっと出ていて、目の健康カードというのを配付したりということもやられていて、こういうことも大事になってくるだろうなというふうにも感じました。

あと、部活動の地域移行では、中学生が参加できる地域のクラブの調査も実施されていて、地域ク

ラブの受入れ体制なんかももう見えてきているのかなというふうにも、とても進んでいるのだなというふうにも思いましたし、エリアコーディネーターの配置ということで、校長先生の協力も得ながら調査を行っているということもおっしゃっていて、コミュニケーションがしっかり取れているのだなということを感じました。そういうところに強みがあるのではないかというふうに思いました。

**(佐藤 勢委員)** 出ておりましたとおり、学校が楽しい、福井を大切にしたい、将来の夢、希望を持っている、非常に高い数値、これはやっぱり一番驚いたところです。では、これってどういうふうなところが影響しているのかなと思ったときに、やっぱり教育方針というか、地域の郷土愛というか、そういったところをしっかり小さい頃から学んでいるのが大きいのかなというふうにも思ったところです。1ページ目からの資料を見返してみるとやはりそこから始まっているものがあるので、そういった福井独特というか、福井の地域のものというのはやっぱりあるのではないかというふうに感じたところです。

それを感じたところでいくと、23ページにあるのですけれども、私の中では、授業以外にも先生が一緒に持久走だとか縄跳びとかしているのだと。体力向上を始めたときからやっているのですかという質問があったと思うのですけれども、そうではなくて、もうずっと歴代、歴史的に一緒にやっていっているのですよというところの回答からすると、やはり先生もしっかり意識を持って、ほかの地域から見たらかなりレベルの高いというか、熱意を持って取り組まれているようなところなのかなというふうにも思ったところです。その先生に引っ張られながら学生なんかも結構主体的になっていろいろと取り組んでいるところが想像できる場面かなというふうに思ったところでした。

あとは、ではどういうふうにしなければいけないのかななんて考えたときには、やっぱり福島市としてもいろいろ取り組んではいるのだとと思うのですけれども、やはり長期的なスパンで、より具体的に何をすべきかというところ、少し長期的なスパンの考えも必要になるのかなというふうに思ったところです。

**(半沢正典委員)** いろいろもう出尽くしていると思うのですけれども、私的には2つ印象的なのがありますて、1つは、市の取組を伺ったにもかかわらず県の全体の取組をいろいろ紹介していただいたところで、比較的人口規模、面積規模も大きい県ではないので、地域性もあるのかなと思うのですけれども、県全体としての取組が市町村とイコールパートナーの関係でしっかりと機能しているなど。特徴的なのは、例えば体力つくり推進計画書も普通は市のほうでやって、それぞれ評価しなさいよというところなのでしょうが、しっかりとフィードバックしてまた戻しているというような形で、県としてのしっかりとしたコミットの部分は少し印象的でした。

もう一つは、やはり今佐藤委員がおっしゃったように学校の先生がお昼休み一緒に走るのも大変ではないのという話したときに、いや、子供のときから先生が一緒に走っていたから、先生になったら走るものだと思っているみたいですよみたいな答えだったと思うのですけれども、そういうふうに地域の伝統文化の中に主体性とか先ほど言った自主性というのがしっかりと根づいていて、その成

果と結果として学力の向上とか、運動能力の向上とか、肥満が少ないとか、運動習慣があるとか、中学2年生で立志式をやるというようなことで、昔ながらの浅井、朝倉のあたりからつながっているやつなのだろうなというふうに思いますけれども、そういうふうな伝統文化をしっかりと生かした中のまちづくりで、そのまちづくりの教育という部分についてもしっかりと生かされているなというような印象を持ちましたので、意識改革と行動変容を伴うので、本当にすぐあそこの域まで達することはなかなか難しいなと。ですから、福島市もちょっと時間はかかるかもしれないのですけれども、今までのことをしっかりと断ち切るべきところは断ち切って、大胆な変革が求められるのかなというふうに思ったのが福井市の視察がありました。

**(大平洋人委員)** 皆さんからほとんど出尽くしたような感じがいたしますし、最後の市という、4か所目ということでありますので、半沢委員の話も伺っていますと、歴史的なというか、地域的な長い時間の流れみたいのを感じますと、今回堺市から始まったわけですけれども、堺市が先進なのかなと思って話を聞いていたら、ああ、福井市が一番すごかったのだというのが、そういったものが理解できるような、そんな視察だったような気がしてなりません。いや、裏を返せば、福井からもしかしたら都のほうにいろいろな、いい形で先生方の教育という部分でつながっているのかなと、しみ出してきているのかなという気もいたしましたけれども、ニューススポーツの件とか、それから競わない室内スポーツのスポーツ体験会というものの取組については非常に改めて、これから時代はそういうやはり体力がという、ハードなことではなくてソフトにいく時代なのかなという、そういうものもすごく感じました。

それから、ご説明の中にありましたＩＣＴのタブレットの活用についてでありますけれども、これについてはやっぱり今どきの子供たちは、ゲームだけでなく体育の授業で作戦を立てたり、運動や動くだけではなくてチームワークづくりを学んだり、ＩＣＴでデータを集め、仲間と話し合い、まとめたりすることも重要になるということで、どうしても力みたいな、まさに体力そのものをイメージしていたものを覆されるような、非常に参考になる事例をお話として伺いました。

最後に、地域クラブとの活性化のところがありましたけれども、これについては休日の活動が令和7年度以後これ廃止になっていくということからエリアコーディネーターを、広い福井市を4つに分割をして、モデル事業として立ち上げた協議会の中からニーズ調査して、今回の話でありますと剣道、バドミントン、吹奏楽、柔道が事業化しているというところだそうでありますと、移行後やはり必要になってくる、先生が教えないことによって月謝、指導料ですね、この負担金、受益者負担の課題もありますけれども、でも全市的なアンケートではＰＴＡの皆さん方も3,000円から5,000円程度の負担は可能であるという前向きな結果も出ているということであれば、今後発生するであろう本市にもこういった事例も参考にしていくべきなのではないのかなというのは非常に勉強になったような気がいたしました。

**(高木直人委員)** 福井市につきましては、常に全国トップレベルの結果を残されているというところ

で、どのような取組をされているのか、ちょっと本当に期待して視察に伺ったのですけれども、寝屋川市と同じように体力向上計画に基づいてしっかりと分析とか課題の取組を行っていることはもちろんのですが、あとはやはり注目すべきは学校が楽しいと思う生徒さんたちが非常に多いというところ。それはやはり体育の授業ももちろん楽しい、また業間とか始業前のみんなで体を動かせる、そういう環境もやはり子供たちにとっては学校に行くのが楽しみだなというふうにつながっているのかなというふうに思いました。

あと、充実した授業展開という部分につきましても、やはり子供たち自身が楽しく、また主体性を持って取り組めることにポイントを置いていたりとか、あとはできなかつた子ができたという、ここがまた自信と喜びにつながっているのかなというか、どうしても走るのが遅いとか、鉄棒、逆上がりができないとか、それ自体がやっぱり体育の授業が好きではないとかって、僕、自分がそうだったのですけれども、そういうところを多分、福井市の授業を実際に見たわけではないのですけれども、できない子にどうやったらできるかねとかって自信を持たせてやってみて、それでできたときの喜び、また自信というところがやはり学校って楽しい、体育って楽しいということにつながっているのではないかなど。その広がりがやっぱり常に福井市の体力向上につながっているのかなというふうに思いました。本市も様々取組はされていると思いますので、そこをまたしっかりとこれからも見守りながら、福井市のような取組を加えることによって、より本市の体力の向上につながるものであれば、ぜひとも参考にさせていただければなというふうに思いました。

**(川又康彦委員長)** ありがとうございました。

私のほうからは、福井については、先ほど半沢委員からもありましたが、県が相当各自治体に対して、体力向上についての取組についてはイニシアチブを取ってやっているのだなというのを改めて感じました。多分福井市だけでなく福井県内の各自治体、全ての学校が同様な形でいろいろ取り組んでいる結果が県全体の平均がやはり高くなっているのだなというのを改めて感じました。

部活動の地域移行については、福島市でもこれまで競技ごとで、幾つかの競技が既に移行に向けて少しづつ実践されていますが、福井市においては、福島市同様エリアが広いということで、4つに、人数単位ぐらいに分けて、エリアコーディネーターをつけながら移行に向けての動きを始めているということで、少し福島市よりも先を行っているのかなというふうに感じました。特にエリアで分けていく発想は、これは多分福島市ではあまり考えてこられていなかったのかなという部分は感じておりますので、そういうところは非常に参考になるのかなと感じました。

一応これで各委員からの意見開陳のほうはありましたが、皆さんからの意見を基に何か、福井についてはございますか。

**(宍戸一照委員)** 今委員長からも半沢委員からもありましたけれども、今日私が先ほど申し上げましたけれども、地域移行について、資料の32ページにはこういうふうに具体的なスケジュールも考え示されて、目標に向かって、もう既に着々と進められていると。それで、最後に福井市で聞いたのは、

福島市は部活動指導員ですが、福井市の移行はクラブのほうへと。この進めることについて、この方向性で進められるのですかということだった。この方向性での地域クラブ移行ということで、学校の部活動は休日に行わないと。それでクラブチームと、この辺の入念な調査というか、それを進めた上で地域クラブ移行というのはもう着実に進めていいのだなと。それが福島県と福井県の対応は分かりませんけれども、福島県が地域移行、地域支援というものをどういうふうに考えているのか、それと福島市との連携って先ほど皆さんからもあったように、その辺が一つのポイントで、福井市の場合はこういうふうにもう積極的に進めて、もうクラブ移行は進めている。これに対して、例えばクラブに対して予算づけ、この辺はどうなっているのかなと。それもやっぱり我々としては知る必要性があるのかなといったときに、やはり地域移行を進めるならばもう少し予算づけもしっかりする必要性がないともう、大規模校の部活動はどんどん進められるのですけれども、小規模校の部活動というのはもう衰退する一方で、自分の中学校ではままならないというのが現状なものですから、その辺がやっぱり中学生の運動する子供としない子供の二極化というのがさらに進むのではないかと。それが今後やっぱり福島市のような大きな課題なのかなということを考えると、その辺をもう少し福島市が取り組まないと、なかなか中学生の体力向上という部分においては進まないのかなというふうに感じたところで、それは先ほどの意見の追加ということで。

（川又康彦委員長）ありがとうございます。

そのほかございますか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（川又康彦委員長）今回各自意見開陳を様々していただきまして、やはり全体としては、指導要領の変更という部分はあるのでしょうかけれども、数値をただ単に上げるよりは、子供たちがどのように楽しんで運動について取り組んでいくかということを各自治体でそれが真摯に取り組んでいるのだと改めて感じたところです。また、空調については様々な方式があることを改めて感じましたし、福島市で導入するにあたって、これから第2弾、第3弾を考える際に、やはりいろんな方面から改めて考える必要性があるのかなというふうにも感じました。

また、中学校の部活動の地域移行については、最後宍戸委員からもありましたが、中学生の体力向上というか、体づくりのためにはやはり非常に必要な部分であり、単に部活動をなくしていく形ではない地域移行の在り方というのをどのようにしていくのかというのを改めて、ほかの自治体を参考にしながら、福島市のほうにも提言していく必要があるのかなというのを感じたところです。

皆様からいただいたそれぞれのご意見につきましては、正副委員長手元で内容を調整させていただきまして、調査のまとめの際にお示しさせていただきたいと思っております。

それでは、項目の最後、その他に移りますけれども、委員の皆様から何かございますか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（川又康彦委員長） ないようですので、本日の文教福祉常任委員会を終了いたします。

午後2時27分 散会

文教福祉常任委員長 川 又 康 彦